ＳDGS　　未来都市　しながわに向けて

１・エルとごし　バーチャル映像展示をリアル映像展示へ。地域連携を

〇八潮、目黒川、戸越公園等に、生き物がいる。その生息環境と体験を映像展示連携へ。

〇東京都・小笠原諸島に鯨がいる。子供たちの島留学や体験もされている。

〇バーチャル映像展示で鯨を見せるのではなく、リアルで現地映像と体験を結ぶ。

〇品川区では、ゴミがどれだけ出て、処理にいくら費用が使われているか。化石燃料、重油、電気など、どれだけ使われているか。どれだけの額か、それがどう転換すれば、脱炭素に繋がるかを、見える化へ。

〇**環境省「地域経済循環分析自動作成ツール」**で、エネルギー利用が調べることができる。品川区版で公開へ。何にエネルギーを費やしていて、どこを減らすといいか。身近なところで、できることを明確化する。

小笠原ホエールウオチゥング協会

２・SDGｓ品川みらい塾の開催

〇品川区の、人口、推移、高齢者率、空き家、産業、エネルギーなど、あらゆるデータを出していただく。現在、どんな状況にあるか。地域で脱炭素の取り組みがあるのか。塾を開催。行政、大学、金融機関、議員、区民、中小企業などに参加してもらい、将来のＳＤＧｓを、自分事として考えるセミナーを開催。そこから事業や地域連携に繋ぐ。

〇地域データを公開。参加型のセミナーを実施しているのは、高知県、和歌山県田辺市、富山県、熊本県・熊本大学と８自治体。産官学金融包括協定。

〇長野県上田市**「上田リバース会議」**は、ゼロカーボンをテーマに絞り開催。環境省に採用される。会議はNPO・行政連携・企業・大学連携。

「脱炭素先行地域」テーマは『ローカル鉄道と市民がともに支え合う「ゼロカーボン×交通まちづくり」』。2050年目標。２０２４年４月からスタートする。

ＮＰＯ上田市民エネルギー　**上田市「脱炭素先行地域」（環境省）**

〇ＣＬＴ連携　森林資源と工務店で連携して、木造ビルや、建築物を作り、持続社会に繋ぐ活動が生まれている。**森林パートナーズ**（目黒区）と秩父市で、実績が生まれる。

森林パートナーズ

３・公園や並木や庭木の剪定枝エネルギー転換

〇八潮や、戸越公園など、多くの木々があり、剪定枝が出る。これらをバイオマスエネルギーに転換ができないか。**千葉市**では、**東急**、**グリーンアース**と連携で、剪定枝が、木質バイオマス転換が実施されている。

千葉市「グリーンアース」

４・「ZEB(ゼブ)(ネットゼロエネルギー ビル)」

・エルとごし

・「ZEB Ready」認証の八潮北公園管理事務所

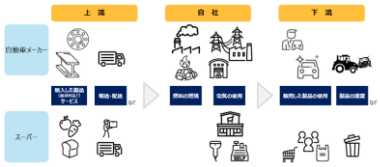
・新庁舎

〇ZEB への推進が行われているが、具体的に、窓、センサー、屋根、太陽光など、地元中小企業や工務店と連携での取り入れられるワークショップ、公開授業の開催。

〇高校生･中学生たちが､自分たちの学校の施設のＺEB 化ワークショップと工務店連携で、身近にできるワークショップ。岡山県、長野県などで実施されている。

〇家庭で、簡単にできる脱炭素、省エネなどの小さなワークショップ。

〇身近にすることで、将来の「スコープ３」を目指す。



スコープ１．２．３とは（環境省）

５・新庁舎と農業との連携

〇千葉県香取郡多古町の農業と品川区の給食が連携されている。新庁舎でも農産物の販売と地域連携ができないか。近くでは横須賀市「すかなごっそ」があり、農業・漁業もある。都市と農村交流と持続社会に繋ぐことは、国の推進事業ともなっている。

〇庁舎に行くとマルシェがあり買い物ができる。練馬区庁や、岩手県遠野市が行っている。海外のイタリアの役場では、多くある。

都市と農村のつながりの強化 - 農林水産省

６・体験農園と交流事業

都市農業が大きな注目を浴び、国でも推進することとなっている。

国の**「都市農業振興基本計画」**には、**「都市農業の多様な機能の発揮」**として

「農産物を供給する機能。防災の機能。良好な景観の形成の機能。

国土・環境の保全の機能。農作業体験・・学習・交流の機能。

「農業に対する理解の醸成の機能」があげられている。
※「<https://www.maff.go.jp/j/council/seisaku/nousin/bukai/r0102/attach/pdf/index-5.pdf>「**都市農業振興基本計画**」

立川市の団地農園と幼稚園の農業体験

〇トロント、ソウル、ニューヨーク、ロンドンには、体験農園があり、人との交流やコミュケーションの場となっている。23 区では練馬区が有名。品川区でも、公園や団地内などの、体験農園があってもいい。団地では、座間市、立川市などの事例がある。

７・高齢者の仕事や生きがいづくり　ワークショップ

〇長生きの人は、仕事や目的がある。リズムある生活がある。ことが分っています。
そのための学びの場、仕事の場、コミュケーションの場などを、設ける。
〇若い人と連携での、一緒にできる仕事を考えるワークショップ。
〇例えば､高齢者が造るクラフトのお店､高齢者で料理がうまい人のビュッフェのお店など。
　高齢者で技術のある人から学ぶ教室など。
〇いらないもの、未利用なもの、不要なものを販売するメルカリ講座。
和歌山県庁、和歌山県田辺市が、手掛けている。
　品川区の高齢者比率は２０％を超えている。

８・空き家が約２３，８６０戸　（空き家率９．８％）

〇品川区では高齢者のいる世帯に占める単独世帯の割合が 39.9%となっており、全国の 35.8%を上回る結果となっている。
〇空き家活用のワークショップが、台東区、熱海市、和歌山市などで実施されている。
ワーキングスペースや､ゲストハウスへの転換など､町全体でのマネジメントがされている。
〇2 階が住まい 1 階が仕事場**「なりわい暮らし住宅」**。ブルースタジオ大島芳彦さんたちが茅ケ崎で手掛けている。福島市の復興住宅でも実施予定。
〇品川区では、**ゲストハウス「品川宿」**が実施。新たな空き家活用があってもいい。
〇昔の建築物は現在の建築基準法に合わず、そのまま改修利用できない。その率 70%。
調査検査し、既存の建物を使えるようにする建築設計事務所**「再生建築研究所」**がある。

再生建築研究所

９・災害時のときに授乳服

乳飲み子のいるお母さんたちに好評な授乳服。災害時では、授乳が簡単、人の目が避けられる、避難所でできると評価されている。母乳育児は、子供の健康と親子のコミュケーションでも欠かせない。森澤恭子区長も授乳服を愛用されていたとのこと。災害時に備えての防災訓練に加えて授乳服支援を。**モーハウス（光畑由佳代表）**が自治体連携で実施。

１０・食のワークショップの開催

〇品川区は、JR 品川駅東口のそばに**「東京都中央卸売市場食肉市場（芝浦と場）」**があり、全国の牛・豚の最上級の肉が入る。このため品川区は、いい焼き肉屋が多い。

〇隣の大田区**「大田市場・東京都中央卸売市場**」は、全国の野菜が入荷する。

　身近に、全国の食品が届く。市場関係者と連携し、飲食店・学校給食・医療関係者などで、流通から背景・健康までわかり、かつバランスのよい食のワークショップ（食育講座）開催。

〇背景から環境・食と健康を学ぶことは、**「学校給食法」「食育基本法」**でも謳われている。

「第 4 次食育基本計画」　**「食のワークショップ」**

提案者：金丸弘美（かなまる・ひろみ）

食環境ジャーナリスト・食総合プロデュサー

総務省地域力創造アドバイザー/内閣官房地域活性化応援隊地域活性化伝道師

農林水産省地産地消コーディネーター/一般財団法人地域活性化センター　シニアフェロー

エネルギーから経済を考える経営者ネットワーク会議 アドバイザー

日本ペンクラブ会員　環境委員会副委員長/ライターズネットワーク相談役

高知県観光特使（高知県）/食の至宝　雪国やまがた伝統野菜ＰＲ大使（山形県）

「かがわの食」Happy プロジェクト実行委員会委員（香川県）

特定非営利活動法人発酵文化推進機構　特任研究員/発酵食品ソムリエ

金丸弘美ホームページ